

一步進んだ国際理解教育について

下吉田第一小学校では、グローバルな社会に生きていく子ども達の未来を見据え、「国際理解教育」を行っています。共通ツールの英語を学ぶと同時に、世界のいろいろな国の文化や民族文化に触れる機会を設け、多文化理解を推進しています。



【低学年から自然に英語に親しむ】

本校では毎週の朝の英語活動に加え、低学年でも月1回「英語で遊ぼうタイム」を設け、ゲームや歌、遊びなどを通して自然に英語に慣れ親しむことができる機会を設けています。写真は、市のALTリーダーと学級担任が工夫を重ねた授業の1コマです。また、冬季には全学年で英語の絵本の読み聞かせを実施しています。

【学んだ英語は実際に使わないと身につかない】

習った英語を使って、忠霊塔や下吉田駅、修学旅行や東京遠足でも積極的にインタビュー活動をしています。通じる経験がさらに大きな自信となっています。積極的に英語でコミュニケーションできるようになる児童もたくさんいます。写真は、COVID19観戦前に実施された修学旅行で行った品川駅での一コマです。COVID19の感染状況を確認しながらこのような対面活動の再開をしたいと思います。また、5.6年生では、TOEICにつながる検定も実施しています。



【広く世界の文化を知る授業】

世界の文化を知る授業。忠霊塔に多く訪れるタイやインドネシアの他、3年生ではフランス、4年生ではナイジェリア、5年生ではイスラム、6年生では中国について学びます。第一小では、英語圏に限らず色々な文化にふれる授業を実施しています。写真は、アフリカのナイジェリアについて英語の通訳を通して学んでいる授業です。児童は、興味津々の様子です。

【中国大連市の小学生と交流】

平成30年度には、中国から日本に来た修学旅行生との交流をしました。6年生を中心に言葉を越えた交流をしました。大連市の小学生は、COVID19の影響がなくなったら、積極的な交流を行いたいと考えています。

